

近畿地方整備局
資料配布

配布 日時	平成23年 8月 1日 14時
----------	--------------------

件名	大阪湾の健康状況を知るため水質一斉調査を実施 ～「第8回 大阪湾再生水質一斉調査」の実施～
----	---

概要	<p>大阪湾再生推進会議(※)では、国・自治体・研究機関・企業などとの連携をはかり、「大阪湾再生水質一斉調査」【別紙1】として、一年の内で最も水質汚濁が懸念される夏場の一日において、一斉に水質調査を実施しています。</p> <p>今回で8回目となる一斉調査では、8月5日(金)を中心に26機関が協力して、海上209地点、河川296地点、計505地点で測定を行います。</p> <p>従来、大阪湾の水質は各機関が各々の目的に応じて個別に調査を実施していました。この調査方法では大阪湾全体の状況を把握することは困難なため、大阪湾再生推進会議では実施日を統一して一斉に調査を行っています。この一斉調査により<u>海の生き物の生息に影響を及ぼす貧酸素水塊の発生分布など貴重なデータの取得を通じて、大阪湾の汚濁メカニズムの解明に向けて努めてまいりたいと考えています。</u></p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"><p>※水質一斉調査の現地取材を希望される方は、近畿地方整備局 神戸港湾空港技術調査事務所 調査課(河崎)までご連絡下さい。</p></div> <p>※大阪湾再生推進会議とは 内閣官房都市再生本部事務局、国土交通省、農林水産省、経済産業省、環境省、滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県、京都市、大阪市、堺市、神戸市、(財)大阪湾ベイエリア開発推進機構で構成。平成15年7月発足。事務局は、国土交通省近畿地方整備局(大阪府、(財)大阪湾ベイエリア開発推進機構が運営協力)。</p>
----	---

配布場所	近畿建設記者クラブ、大手前記者クラブ、 神戸海運記者クラブ、神戸民放記者クラブ、みなと記者クラブ
------	---

問い合わせ先	<ul style="list-style-type: none">●近畿地方整備局 神戸港湾空港技術調査事務所 調査課 河崎 電話番号(直通)078-331-0058●大阪府 環境農林水産部 環境管理室 環境保全課 藤林 電話番号(代表)06-6941-0351(内線3854)●兵庫県 農政環境部 環境管理局 水大気課 柴田 電話番号(代表)078-341-7711(内線3386)
--------	---

「大阪湾再生」水質一斉調査

～ 大阪湾の健康状況を知るために、8月5日 各機関が一斉に水質調査を行います ～

水質汚濁が心配される大阪湾で、一年に一回の健康診断を行います。

大阪湾の健康状況を確認するため、大阪湾再生推進会議^{※1}では国・自治体・研究機関などとの連携をはかり、「大阪湾再生」水質一斉調査として、一年の内で最も水質汚濁が懸念される夏場の一日を定め、一斉に水質調査を実施しています。

これまで、大阪湾の水質調査は、各機関が各々の目的に応じて個別に実施しており、云わば人間ドックのように頭の方からつま先まで、湾全体の健康状況まで確認することが難しい状況でした。

この一斉調査により、海の生き物の生息に影響を及ぼす貧酸素水塊^{※2}の発生分布など貴重なデータの取得を通じて、大阪湾の汚濁メカニズムの解明に向けて努めてまいりたいと考えています。

今回で8回目となる一斉調査では、関係行政機関はもとより、臨海部における企業ともさらに協働をすすめるなど、より多様な主体との連携を図り実施いたします。



(※1)大阪湾再生推進会議:

内閣官房都市再生本部事務局、国土交通省、農林水産省、経済産業省、環境省、滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県、京都市、大阪市、堺市、神戸市、(財)大阪湾ベイエリア開発推進機構で構成。事務局は、国土交通省近畿地方整備局(大阪府、(財)大阪湾ベイエリア開発推進機構が運営協力)。平成15年7月発足。

(※2) 貧酸素水塊:

海水中の酸素がほとんどなく魚介類が生息できない水域。夏場の大阪湾奥部を中心に頻繁に確認されている。

1. 一斉調査実施日 平成23年 8月5日(金) (一部1～4、10、17日実施)

2. 一斉調査を行う地点

海上

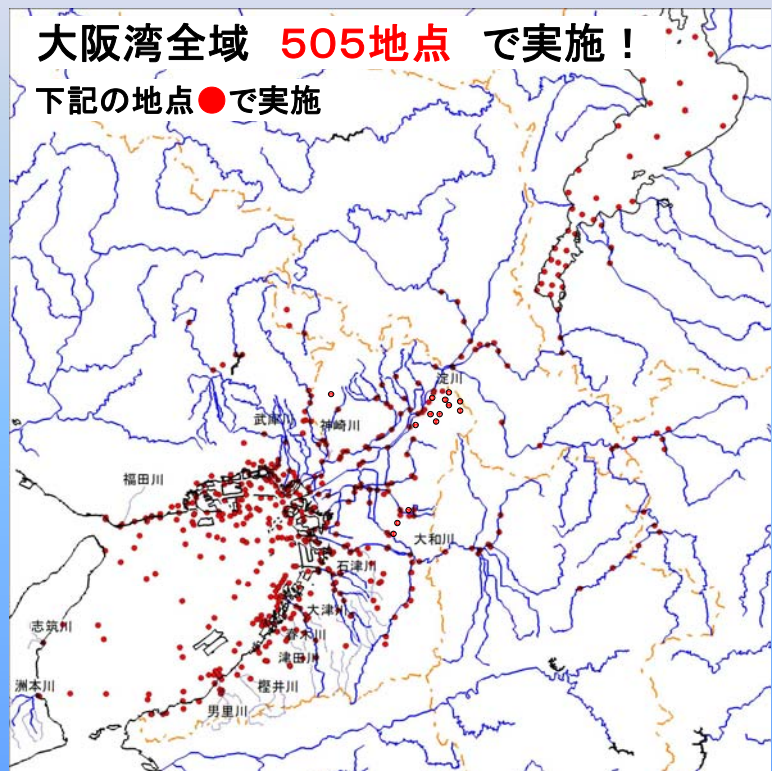
209地点

- ・国土交通省近畿地方整備局(港湾空港部) 11地点
- ・第五管区海上保安本部 19地点
- ・大阪府環境農林水産総合研究所 35地点
- ・大阪府港湾局 4地点
- ・大阪府南大阪湾岸流域下水道事務所 16地点
- ・大阪市環境局 6地点
- ・大阪市港湾局 6地点
- ・堺市 4地点
- ・兵庫県農政環境部環境管理局 13地点
- ・神戸市 22地点
- ・西宮市 6地点
- ・尼崎市 3地点
- ・独立行政法人国立環境研究所 7地点
- ・大阪市立大学 6地点
- ・大阪府立大学 1地点
- ・神戸大学 3地点
- ・兵庫県立尼崎小田高等学校 14地点
- ・大阪湾広域臨海環境整備センター 19地点
- ・阪神高速道路株式会社 1地点
- ・関西電力株式会社 1地点
- ・大阪ガス株式会社 1地点
- ・新日本製鐵株式会社 1地点
- ・JFEスチール株式会社 1地点
- ・東洋建設株式会社 1地点
- ・五洋建設株式会社 1地点
- ・日本ミクニヤ株式会社 4地点
- ・株式会社環境総合テクノス 1地点
- ・いであ株式会社 2地点

陸上

296地点

- ・国土交通省近畿地方整備局(河川部) 105地点
- ・大阪府、兵庫県及び関係市 191地点



3. 共通測定項目

- ・「大阪湾再生行動計画」では「魚庭(なにわ)の海」の復活を目標に掲げており、その実現に向けて生物生息指標であるDO(溶存酸素量)、透明度、塩分、水温を海域の共通測定項目に設定。
- ・大阪湾に流入する河川では、陸域などから流入する汚濁負荷の指標であるCOD、窒素、りんなどを測定。
- ・第五管区海上保安本部では、流れの調査とともに、塩分、水温、及び透明度などを測定。

4. 期待される効果

- ・大阪湾全体の環境負荷の全体像の把握(貧酸素水塊の発生分布など)
- ・大阪湾の汚濁メカニズムの解明と藻場や干潟などの改善方策の効果的な対策手法の検討
- ・陸域からの流入負荷など、陸域と海域の関係の解明
- ・国、自治体、研究機関、企業などによる環境モニタリングネットワークの構築等

5. その他

- ・現地取材を希望の方は、8月3日(水)17:00までに近畿地方整備局神戸港湾空港技術調査事務所調査課までご連絡ください。

近畿地方整備局 神戸港湾空港技術調査事務所 調査課 河崎
電話番号(直通)078-331-0058



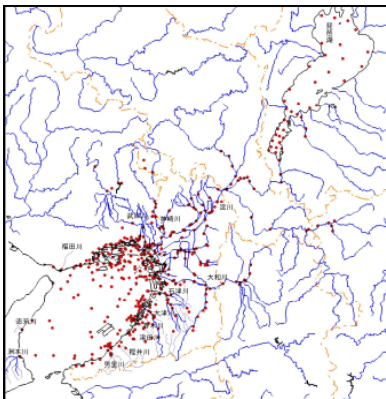
↑ 大阪湾再生のイメージ

平成22年度 大阪湾再生水質一斉調査の結果(概要)

平成22年8月3日を中心に実施した前回の調査結果概要を以下に示します。

1. 調査概要

平成22年度は、海域204点、陸域の河川266点の計470点で調査を実施しました。



平成22年度調査位置



現地調査状況



分析状況

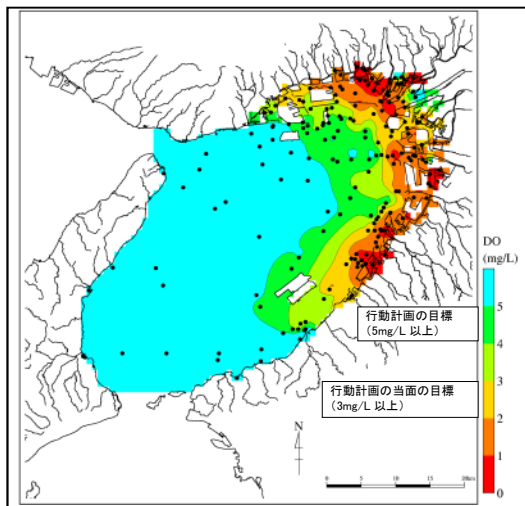
平成16年度から22年度の実施状況は以下のとおりです。調査地点数と、()内に機関数を示しています。

	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22
海域	160(12)	206(20)	217(22)	208(24)	194(28)	214(31)	204(28)
陸域	250(18)	242(17)	266(17)	253(17)	246(16)	262(16)	266(16)

2. 底層DO

・底層のDOは、大阪湾東側の岸近くの海域で3mg/L未満の低い値となっていました。これは、行動計画の目標値(当面の目標である3mg/L)を達成していない状況でした。

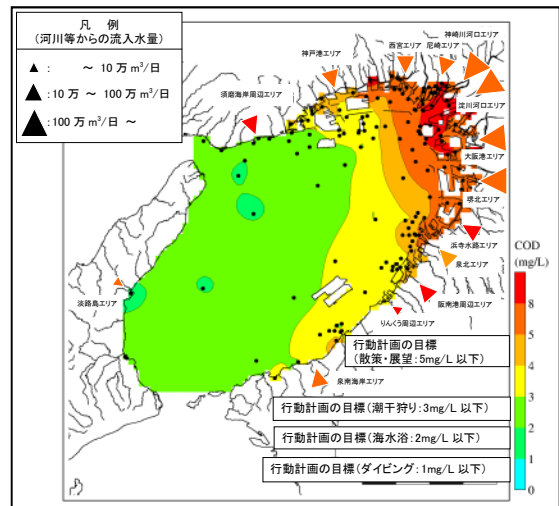
・一方、大阪湾西側の海域では、5mg/L以上であり、東側と比較して高く、大阪湾再生行動計画の目標値(5mg/L)を達成していました。



3. 表層COD

・表層のCODは、陸域からの流入負荷量の大きい大阪湾東側の海域を中心に5mg/Lを超える高い値を示していました。これは、目標のひとつである「散策や展望に適した水質レベル: 5mg/L以下」を満足していない状況にありました。

・一方、大阪湾西側の海域では、3mg/L以下であり、東側と比較して低くなっていました。



4. 透明度

・透明度は、大阪湾東側の海域では、3m以下の低い値を示していました。

・一方、大阪湾西側の海域では概ね5m以上であり、東側と比較して高くなっていました。

